

旧陸軍

- 1 屯田兵
- 2 歩兵第 25 連隊と北部軍司令部
- 3 戦争の終結と旧陸軍施設のその後

1 屯田兵

札幌に軍隊が置かれたのは、開拓使の黒田清隆^{くろ だ きよたか}次官が、時の明治政府に、北海道に「屯田兵制度」を導入するよう提言したことに始まります。それは、土地の開墾^{かいこん}や他国の侵略から国を守ることが必要と考えたからです。

明治 8 (1875) 年から、琴似村と山鼻村、新琴似村、篠路村に兵員と家族のための住居、道路などが計画的に造られ、本州で募集した兵員が家族ごと移住するようになりました。

2 歩兵第 25 連隊と北部軍司令部

日清戦争時の明治 28 (1895) 年 3 月、屯田兵からなる第 7 師団が臨時に編成され、翌 29 (1896) 年には正式な第 7 師団となって、月寒村に歩兵、砲兵、工兵からなる野戦^{やせん}独立隊がおかれました。

明治 32 (1899) 年には歩兵隊を 25 から 28 の 4 つの連隊に分割し、翌 33 (1900) 年からは 26 から 28 連隊が旭川に移転したため、札幌には月寒の歩兵第 25 連隊のみが残ることになりました。

昭和 12 (1937) 年に日中戦争が始まると、札幌市と豊平町には軍の施設が次々と造られました。月寒には、昭和 15 (1940) 年に北部軍司令部が開設されました。この司令部は北海道、樺太、千島、青森、秋田、山形、岩手を管轄^{かんかつ}し、昭和 19 (1944) 年には第 5 方面軍司令部に改めて、北海道、樺太、千島に限定した作戦を担当することになりました。

その他にも、月寒には軍隊の訓練をする練兵場^{れんべいじょう}、兵隊が生活する官舎や病院なども造られました。これらの軍施設の所在地は、現在の月寒中央通 7 丁目付近にあたります。

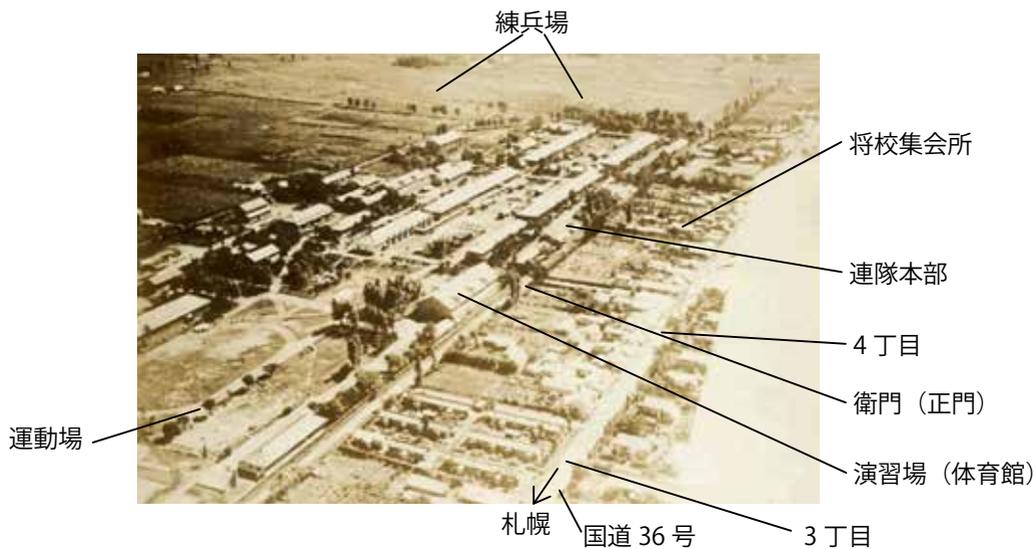


写真-1 歩兵第25連隊兵営

3 戦争の終結と旧陸軍施設のその後

昭和20年(1945)年8月15日、日中戦争から太平洋戦争へと拡大した長い戦争は終結し、日本は、アメリカを中心とした連合軍によって統治されることになりました。連合軍は、平和と民主主義を目指した政策を取り、外国に対して戦争を行わないように日本の軍隊を解散しました。

月寒にあった軍の施設も、学校や役場などの公共施設として使われるようになりまし

た。軍の小演習場や射撃場として使用されていた土地は、現在、月寒公園となっています。練兵場跡地は道営札幌競輪場、月寒運動広場を経て、昭和46(1971)年に月寒屋内スケート場となり、札幌オリンピック開催後は、月寒体



写真-2 歩兵第25連隊射撃場

育館となりました。北部軍司令部は月寒中学校、歩兵第25連隊の運動場は札幌月寒高等学校の運動場になっています。月寒東2条2丁目の北部軍司令官の官邸は、現在、地元の方々が「つきさつづ郷土資料館」として運営し、昔の貴重な資料や道具などを展示しています。



写真-3 つきさつづ郷土資料館